



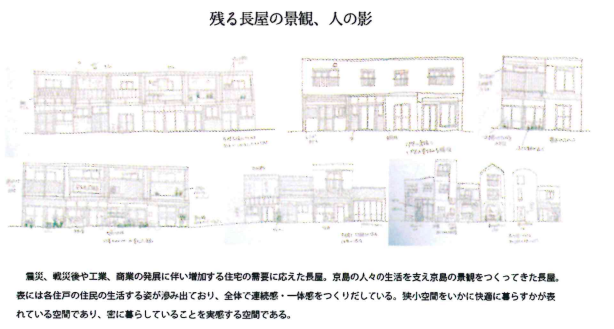
密に暮らすこと

～高齢者と若者の密なコミュニティの構築～

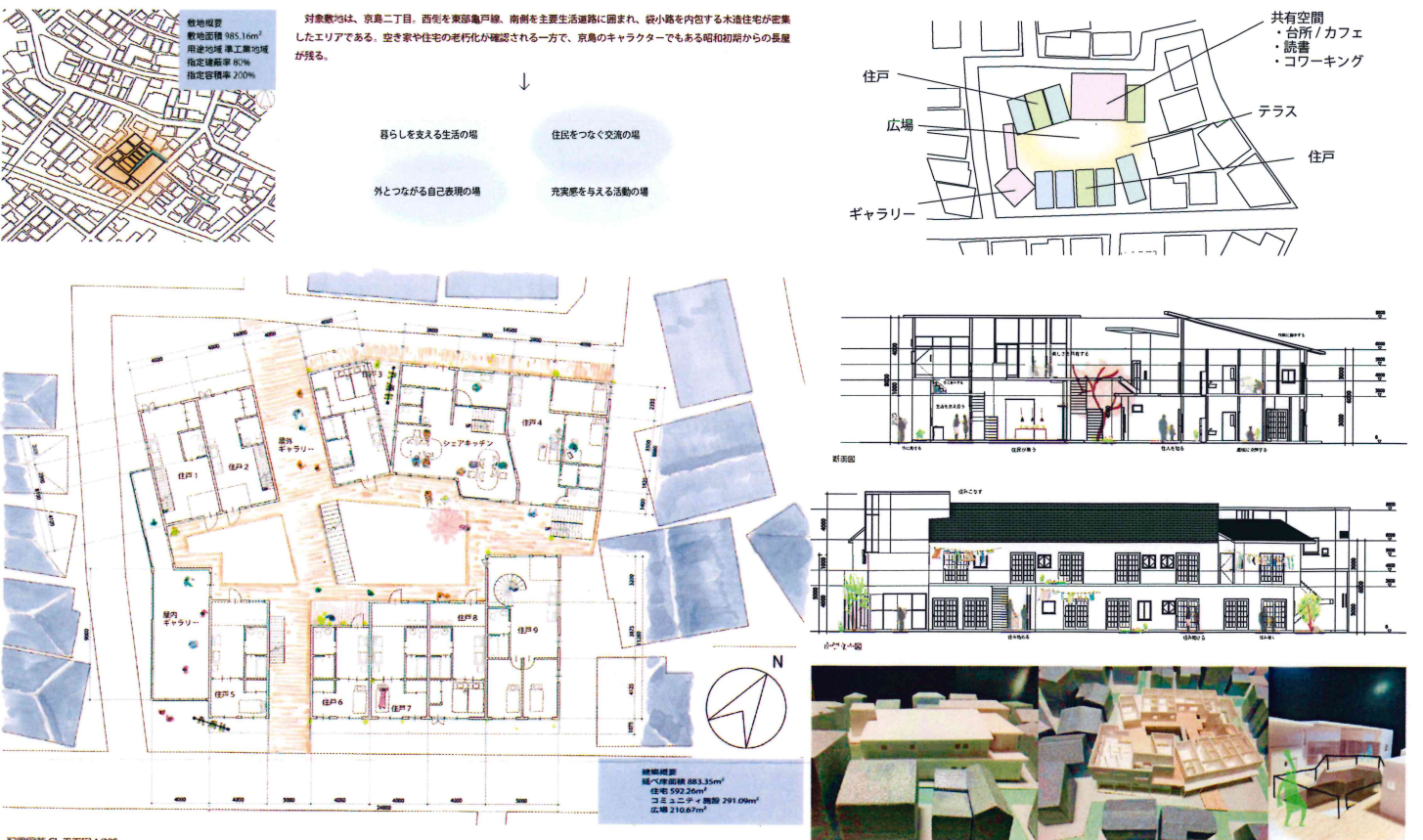
DZ17269 山下雄太

対象地は東京都墨田区京島二丁目。京島地区は、東京大空襲による焼失を免れ、周辺から被災者が流れ込み、都市基盤が未整備のまま市街化が進行した地区である。その結果、京島では迷路のような細い道が張り巡らされ、住宅が無秩序に密集して建てられた。現在に至っても、無秩序な街のカタチは残っており、防災面や高齢化、空き家など様々な課題を抱える地域である。密集したエリアの中で築かれてきた住民同士の密な繋がりは薄れ、建物の老朽化とともにかつてのコミュニティの活気が失われつつある。高齢化の深刻さや災害時の危険度が増していく一方で、若者の転入数は年々増加しており、京島の街に魅力を感じ、京島でお店を開く若者が増加している。本設計では、住む空間と、活動の空間、作品を飾る空間によって、住民同士の関わりが生まれ、密に住むことと共に生活すること、共有することを考え直す集合住宅を提案する。

I 敷地調査

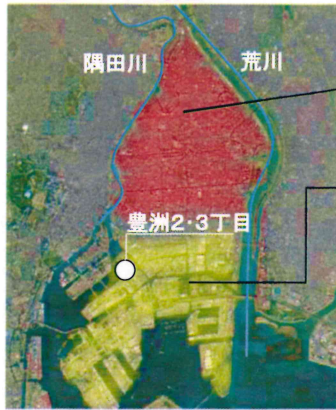


II 敷地と空間と人



I 豊洲地区の位置付け

<江東デルタの特性>

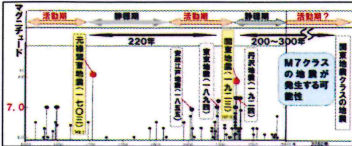


<災害危険地域>
・木造密集地帯
・海拔0メートル地帯

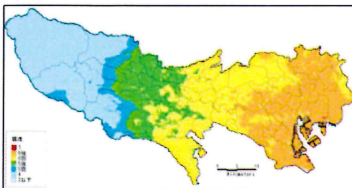
<臨海地域>
・地区内残留地区
・広域避難場所

江東デルタ地帯は
2面性を持つ地域である。

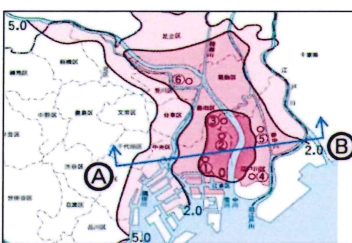
<江東区防災計画>



出典：中央防災会議 首都直下地震対策検討ワーキンググループ（首都直下地震の被害想定と対策について（最終報告））

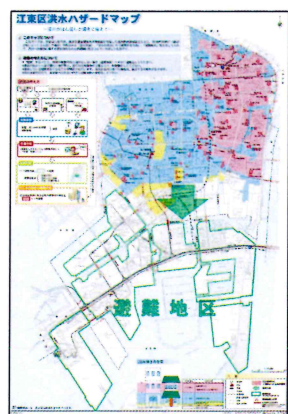
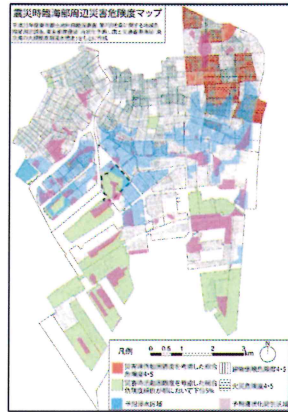


出典：東京都防災ホームページ 首都直下地震等による東京の被害想定 概要版



出典：国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 荒川水系 大規模氾濫に関する減災対策協議会

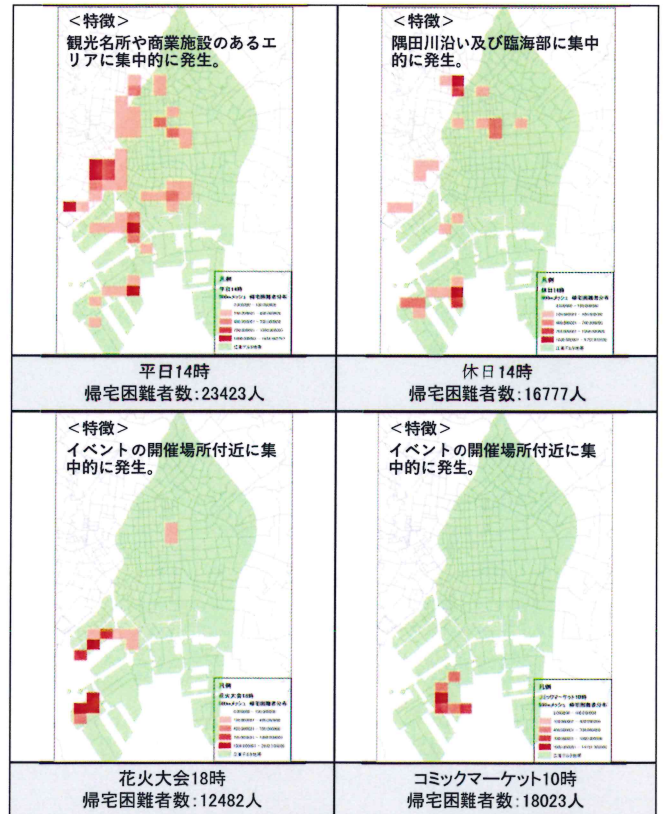
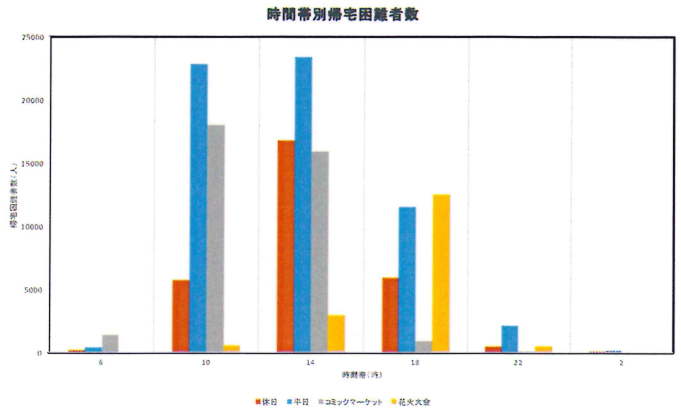
荒川氾濫による洪水発生時については、左側の図から江東デルタの荒川流域周辺を中心に海拔0メートル地帯が広く分布していることがわかる。そして右側のハザードマップを参考によると、内陸部のほぼ全域が3メートル以上の浸水被害を受け、避難地区として豊洲を含む臨海部が指定されている。したがって地震発生時、洪水発生時ともに臨海部は内陸部の避難者の受け口となる可能性がある。



II 帰宅困難者推計

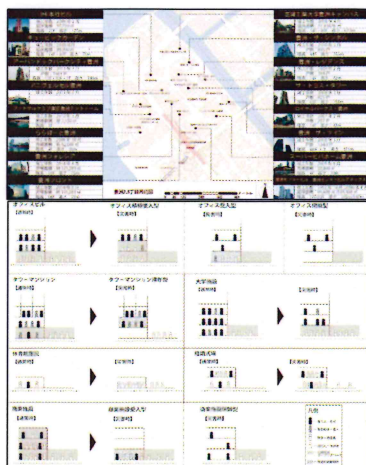
<帰宅困難者数とその分布>

本研究では、(株)NTTdocomoの提供する携帯電話の端末位置情報を利用した人口統計データであるモバイル空間統計を用いている。そのデータから平日、休日、イベント日といった日時を設定し、江東デルタ地帯における帰宅困難者数の総数と分布を明らかにした。帰宅困難者の分布については、江東デルタ地帯における500mメッシュごとの分布を使用した。



III 今後の活動

<防災性能と災害連携に関する研究>



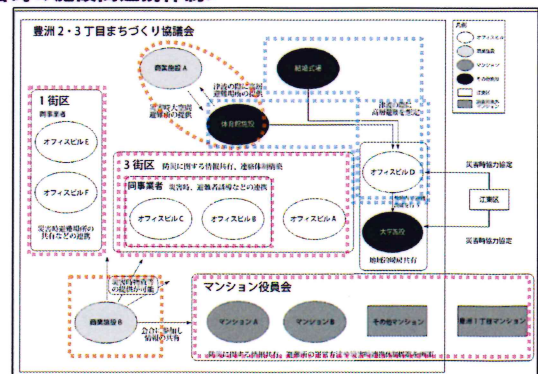
ヒアリング調査/アンケート調査

- ・各施設の災害対応（事前準備 備蓄品 帰宅困難者受入）
- ・災害時の施設間連携

先述した被害想定から豊洲周辺でも大きな混乱が予想されることが分かる。それらの抑制のため、またさらには地区内の防災にまつわる情報の一元化と可視化を目的として、防災マップや帰宅困難者支援マップの作成が、活動のひとつとして考えられる。

その前段階として本研究では、「豊洲2・3丁目の防災性能と災害時連携に関する研究」を行った。2・3丁目の各施設にヒアリング調査やアンケート調査を行い、事前準備や備蓄品、帰宅困難者受入などの災害対応と、災害時の施設間連携について明らかにした。

<災害時の施設間連携体制>



図は施設間連携の結果をまとめたものである。ピンクで囲った部分は同じ用途施設での連携で、災害対応マニュアルや情報を共有している、オフィスビル群、マンション群。オレンジは異なる用途施設での連携で、ららぽーととフットサル場の間では互いに避難場所として提供しあう、口約束による協定がある。ビバホームは食料やカセットボンベなどを周辺施設に提供可能となっている。青は、IHが江東区と災害時協力協定を結んでいるということで、周辺の施設が災害時避難することを想定している。